

国語シリーズ 56

国語表記の問題

文 部 省

国語表記の問題

宇野義方

刊 行 の 趣 旨

国語シリーズは、国語の改善と国語教育の振興に関する施策を普及徹底するために編集するものです。

このシリーズは、国語問題編・国語教育編・国語生活編・国語教養編および資料編に分け、問題編は主として国語審議会の発表した事がらを、教育編は国語学習に関する事などを、生活編は国民の言語生活に関する事がらを解説するものであり、教養編は一般の国語教養を高めることを、資料編は国語改善と国語教育に関する基礎資料を収録することを目的としたものです。

すでに問題編は13冊、教育編は15冊、生活編は5冊、教養編は8冊、および資料編は14冊を刊行しましたが、各編にわたって今後もひきつづき刊行する予定です。

この本は、資料編の15冊目として、「国語表記の問題」について、立教大学助教授宇野義方氏に執筆を依頼したものです。

昭和37年12月

文部省調査局国語課長

白 石 大 二

目 次

第1章 符号の諸問題	1
第1節 『茶話』から——符号の必要——	1
第2節 符号とは何か——考察の範囲——	5
第3節 文字言語の表現——符号の役割——	9
第4節 昔はこんな形——若干の用例——	12
第2章 符号の機能と形態	17
第1節 機能と符号——符号の分類——	17
第2節 段落と文と——区切り符号1——	20
第3節 語句の切れ目——区切り符号2——	24
第4節 一部分を示す——引用・注記・強調——	31
第3章 カッコの用法	36
第1節 人・作品による——カッコの用例——	36
第2節 内と外と——カッコの問題——	47
あ と が き	55
付 録 くぎり符号の使ひ方〔句読法〕(案)	60
くりかえし符号の使ひ方〔をどり字法〕(案)	77